

教科書問題

隠へいされた八重山史

大田 静男



おおた・しずお 1948年石垣市生まれ。元石垣市文化財審議員。著書に『八重山戦後史』『八重山の芸能』『八重山の戦争』。

巧妙な手段で歴史歪曲 国の責任問わず住民に転嫁

教科用図書八重山採択地区協議会（会長・玉津博克石垣市教育長）が「新しい歴史教科書をつくる会」系の育鵬社の公民教科書を選定するまでの手法は、「つくる会」系教科書が採択された横浜市など他地域と同じである。この巧妙な手段がいずれ沖縄にも波及するのは必定だと思つていた。

県内での右傾化は急に起つたことではない。戦争体験者は高齢化し、米軍占領下の基地建設のための土地強奪、人権無視の歴史はかなたに追いやられた。県平和祈念資料館の「住民虐殺」の軍閥を薄めるような展示変更や、慶良間列島での「集団自決（強制集団死）」の軍閥を否定する大江・岩波裁判提起があつた。

八重山では与那国町や石垣市の保守首長誕生によつて、

与那国町は積極的に自衛隊誘致を図り、石垣市では市議が市長と連絡をとりあいながら尖閣に上陸した。防衛協会も前面に出て、日の丸を振つて自衛隊を歓迎するまでになつた。国境の島には国防意識、愛国心、憲法改正を訴える横断幕やポスターがあちらに貼られ、ハトの島はいまやタカの島に大変貌を遂げようとしている。

育鵬社の歴史教科書「新し日本の歴史」は、今回選定されたなかのもの、琉球（沖縄）の重要な歴史など、国家の責任に及ぶものは意図的に隠蔽している。

琉球併合の例を挙げれば、脱清人たちの抵抗や、明治政権の強制的統治による「集団自決（強制集団死）」の軍閥を否定する大江・岩波裁判提起があつた。

八重山地区的教育委員は果たして、このような歴史を知触れていない。

育鵬社の教科書を評価したのだろうか。

沖縄県民の意思よりも米国の国益を優先させ、基地被害をないがしろにして、核持ち込み（密約）で国民を欺いた政府。それには一切触れずに「国のために何ができますか」はない。この教科書を採択することはずなわち、教育の国への隸従である。

風穴は開けられた。風はやがて沖縄中に吹き荒れる可能性が強い。ひとりひとりが間



八重山の戦争マーリアは、軍が住民を汚染地域に強制的に退去させたことによって起

あるということである。

八重山の戦争マーリアは、

軍が住民を汚染地域に強制的

に退去させたことによって起

</div